

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

図2-1 調査地案内図



調査位置：●

S=1:50,000

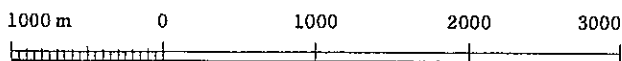
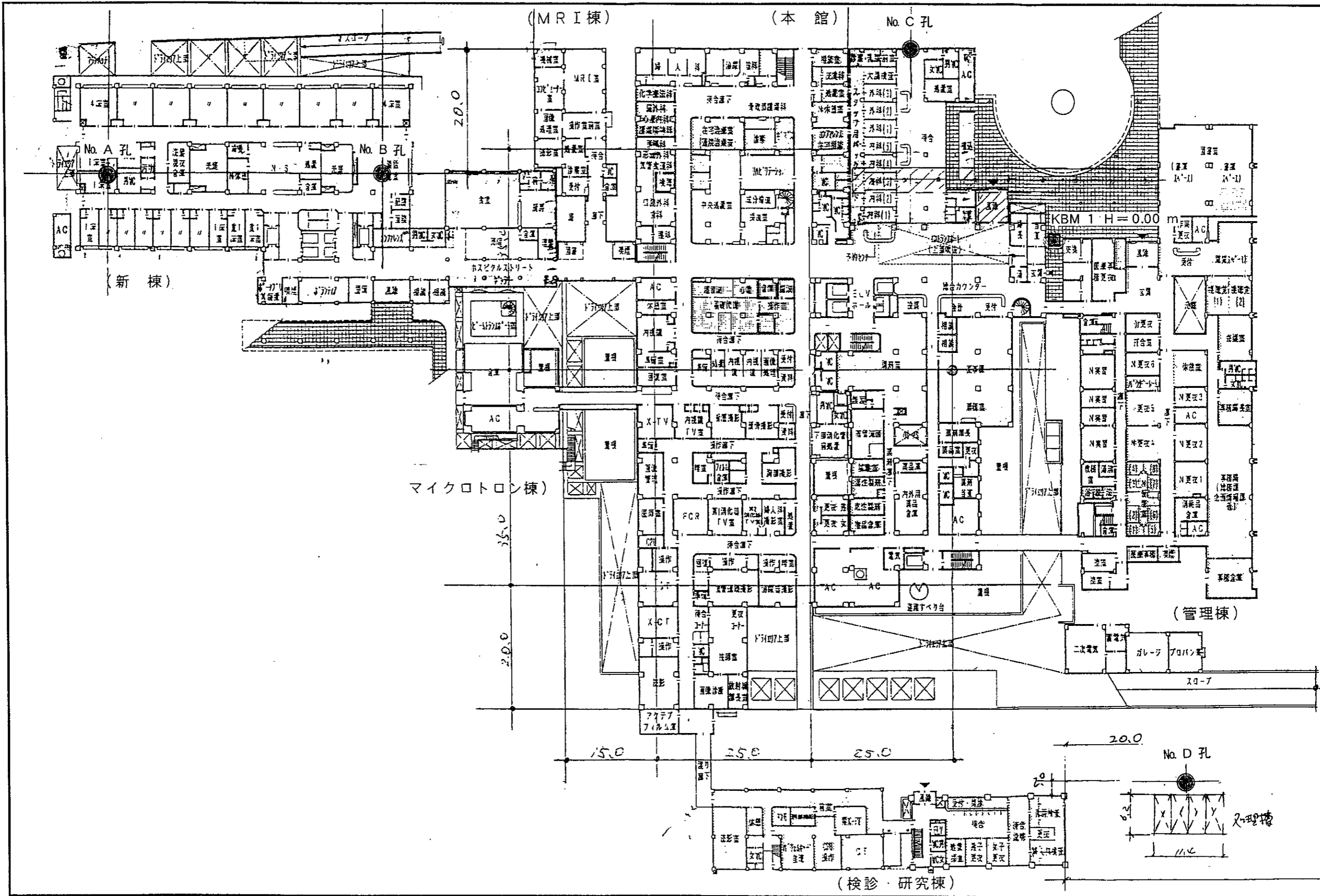


図 2 - 2 調査位置平面図

縮尺 1 / 600



ボーリング柱状図

調査名 栃木県立がんセンター新館等建築工事

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No. B	調査位置	栃木県宇都宮市陽南4丁目地内	北緯
発注機関		栃木県立がんセンター	平成10年 7月 9日~10年 7月10日	東経
調査業者名		主任技師	現代理人	ボーリング責任者
孔口標高	KBM +0.16m	方角	加納 KR-100	ハンマー落下用具
総掘進長	15.16m	度	エンジン NF-90型(Yannma)	ポンプ
		角	試験機	V-6型
		180°上 0°下	コア鑑定者	
		270°西 90°東 180°南		
		地盤勾配		
		水平		
		使用機種		

シートNo.

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	柱状図	土質区分	色相	相對稠度	相對密度	記相	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験			原位置試験 試験名 および結果	試験採取 試験料番号	掘進月日
										深度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)			
1	0.75	-0.59	埋土	暗赤茶色 茶褐色	中位	中位		上部の20cmは軽石である。 深部は有機質シルト主体の旧表土。 7/12 5.77	2.15	1	3	1.00	TB-1		
2	1.45	-2.04	ローム	暗赤茶色 茶褐色	中位	中位	含有軽石を多く混入する。 下部に軽石を多く混入する。	2.50	1	1	35	1.70			
3	1.10	-3.14	軽石	黄褐色 茶褐色	中位	中位	含有軽石を多く混入する。	3.15	1	1	49	4.00			
4	1.65	-4.79	ローム	茶褐色 茶灰	中位	中位	含有軽石を多く混入する。	3.64	5	6	27	4.70			
5	0.45	-5.24	シルト質砂	暗赤茶色 暗赤茶色	中位	中位	粗砂を主体とする。 全体的にシルト分の混入が多い。 下部付近では粒子不揃いの角張った粗砂 主体となる。	5.15	6	16	30				
6	0.55	-5.79	玉石混り砂	茶灰 暗赤茶色	中位	中位	径10~100mm程の円礫主体である。 最大礫径300mm位である。 全体にシルト及び粘土分を混入する。	5.45	23	24	13	60			
7	0.55	-6.34	砂	茶灰 暗赤茶色	中位	中位	含有軽石を多く混入する。 径5~40mm程度の円礫を混入する。	6.15	60	60	4				
8	0.76	-7.10	黄土	黄褐色 茶褐色	中位	中位	含有軽石を多く混入する。 径10~150mm程の円礫主体である。 最大礫径200mm位である。 全体に粘土及びシルト分を混入する。 深度8.40~10.00m付近では、 150mm位の円礫を多く混入する。 深度1.3m付近シルト及び粘土分を多く 混入する。 深度8.75m, 14.50m, 15.0 0m付近には砂を挟む。	8.15	2	3	1	9	31		
9	0.76	-7.86	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		8.46	18	13	14	45	30	17	
10	0.76	-8.62	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		9.15	21	18	18	60	30		
11	0.76	-9.38	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		9.45	44	44	7	60	27		
12	0.76	-10.14	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		10.15	20	15	7	60	27		
13	0.76	-10.90	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		10.45	17	19	26	62	30		
14	0.76	-11.66	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		11.15	21	20	14	55	30		
15	0.76	-12.42	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		11.32	21	20	14	60	1		
16	0.76	-13.18	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		12.15	25	20	14	60	1		
17	0.76	-13.94	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		12.42	17	19	26	62	30		
18	0.76	-14.70	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		13.15	21	20	14	55	30		
19	0.76	-15.46	黄土	茶灰 暗赤茶色	中位	中位		13.45	60	60	1	60	1		
								14.15	21	20	14	55	30		
								14.45	60	60	1	60	1		
								15.16	1	1					

ボーリング柱状図

調査名 栃木県立がんセンター新館等建築工事

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	No. C	調査位置	栃木県宇都宮市陽南4丁目地内	北緯
発注機関	栃木県立がんセンター	調査期間	平成10年7月11日~10年7月12日	東経
調査業者名		現場代理人	コア	ボーリング責任者
孔口標高	KBM -0.48m	主任技師	大野ORV-100	ハンマール落下用具
総掘進長	15.17m	方角	北0° 270°西 180°南 90°東	ポンプ
		地盤勾配	鉛直 水平0°	
		使用機種	エンジン	NS75C

標尺 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対稠度	相対密度	記	標準貫入試験				原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試験採取 試験料番号	室内試験 採取方法	掘進 月日	
								深 (m)	10cmごとの 打撃回数	10cmごとの 打撃回数	貫入量 (cm)						
-1.08	0.60	XXXX	盛土	暗灰				上部の10cmはアスファルト。 深さ0.40mまで碎石である。 以下は山砂、ローム等の相性盛土。	1.15	2	3	5	30				
-3.08	2.00	////	ローム	茶褐			含水量中~低位。 有機物を混入する。 下部に軽石を混入する。	1.45	1	1	3	3	37				
-3.48	0.40	△△	軽石	黄褐			軽石高位置コリアを混入する。 粗粒不均一な軽石である。	2.52	1	1	1	3	30				
-5.58	2.10	○○	ローム	黄茶褐			含水量中位。 スコリアを少量混入する。 全体に粘土分を少量混入する。	4.15	1	1	1	3	30				
-9.18	3.60	●●	玉石混り砂礫	暗褐灰 / 黄灰褐			径2~100mm程度の珪円礫主体である。 径150mm位の玉石を混入する。 基質部は細砂及びシルトで構成される。 深度7.50~8.00m間に漏水有り。	5.15	20	19	11	50	26				
-11.48	2.30	○●	シルト質砂礫	灰褐			径2~100mm程度の珪円礫主体である。 径200mm位の玉石を混入する。 基質部はシルト質の砂及び砂質シルトで構成される。	6.15	21	19	10	50	24				
-15.65	4.17	○●	玉石混り砂礫	暗褐灰			径2~100mm程度の珪円礫主体である。 径150~300mm位の玉石を多く混入している。 基質部は砂及びシルトの質砂である。	7.15	23	19	8	50	24				
								7/12 4.45	10	10	9	29	30				
								8.45	27	23	8	50	18				
								9.15	20	21	9	50	23				
								10.15	11	23	16	50	28				
								11.15	21	19	10	50	25				
								12.15	14	15	19	48	30				
								13.15	22	20	8	50	22				
								14.15	50	50	50	2	50	2			
								14.37	50	50	50	2	50	2			
								15.15	50	50	50	2	50	2			
								15.17	50	50	50	2	50	2			

ボーリング柱状図

調査名 栃木県立がんセンター新館等建築工事

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	No. D	調査位置	栃木県宇都宮市陽南4丁目地内	北緯	
発注機関	栃木県立がんセンター	調査期間	平成10年7月11日～10年7月12日	東経	
調査者名	主任技師	現代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	NBM -0.84m	使用機種	ハンマ落下用具	コーンフーリー	(63.5kg)
総掘進長	10.40m	方位	北0° 270°西 180°南	エンジン	NFD9
		角	180°上 90° 0°下	ポンプ	GP-5

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	柱状図	土質区分	色調	相對密度	相對稠度	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験			原位置試験		試験採取		掘進月日	
										深度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	深度 (m)	試験名および結果	試験料番号	採取方法		
1	0.80	-1.64	X	盛土	灰			上部の5cmはアスファルト。以下は碎石、若干の粘性土主体の盛土。含水量-中位。軟質である。炭化物及び砂を少量混入する。	7/12 4.50	1.15	1	2	3	6	30			
2	0.90	-2.54	/\	ローム	茶褐			含水量-高位。軟質である。粒径1~6mm程度の軽石である。砂分を少量混入する。		1.45	1	1	3	3	3			
3	1.25	-3.79	/\	軽石	黄褐			含水量-高位。炭化物を混入する。下部に従い砂分の混入が多くなる。		2.15	1	1	1	3	3			
4	1.05	-4.84	/\	ローム	茶褐			含水量-高位。粘性性-中位。		2.45	1	1	1	3	3			
5	1.60	-6.44	/\	細砂	褐			上部は粒子均一であり、シルト分を多く混入している。深度5m付近より粒子不均一となる。また、粗砂分をやや多く混入する。		3.15	1	1	1	3	3			
6	1.40	-7.84	/\	砂礫	灰褐			径5~4.0mm程の珪円礫主体である。最大粒径6.0mm位である。基質部は細砂、シルト質砂主体である。深度6m付近から、径5.0~6.0mm位の珪円礫を多く混入する。		3.50	2	3	3	8	30			
7	1.40	-9.21	/\	粘土混り砂礫	灰褐			径5~3.0mm程の珪円礫主体である。最大粒径6.0mm位である。基質部は粒徑不均一な粗砂主体である。径1.0~0.2mm位の玉石が点在する。		4.15	2	3	3	8	30			
8	1.37	-10.58	/\	玉石混り砂礫	灰褐			径5~4.0mm程の珪円礫主体である。最大粒径6.0mm位である。径1.0~2.0mm位の玉石点状に存在する。基質部は粗砂、粘土質砂で構成される。下部に従い小礫がやや多く混入する。		4.45	9	9	5	30	25			
9	2.03	-12.61	/\							5.15	12	9	5	30	25			
10	2.03	-14.64	/\							5.40	19	25	9	53	23			
11			/\							6.15	21	18	11	50	25			
12			/\							6.38	21	20	9	50	22			
13			/\							7.15	15	16	13	44	30			
14			/\							7.40	15	16	13	44	30			
			/\							8.15	21	20	9	50	25			
			/\							8.37	21	20	9	50	25			
			/\							9.15	21	20	9	50	25			
			/\							9.45	21	20	9	50	25			
			/\							10.15	21	20	9	50	25			
			/\							10.40	21	20	9	50	25			